

2018年度 国際開発入門コース 受講者募集のご案内

グローバル化が急速に進むなか、国や地域の課題が複雑に影響し合い、地球規模の課題となって深刻な状況を生み出しています。課題解決に取り組む国際開発協力分野では、専門性の高さと共に幅広い知識を持つ人材が求められています。

FASiD「国際開発入門コース」では、社会人として様々な経験を積みながら、将来、国際開発協力分野で活躍することを希望されている方々に、講義やワークショップ、グループディスカッション等を通じ、国際開発協力に関する基本的な理論や知識、主要な課題とそれら課題間の関係性などを、包括的に理解していただくことを目指します。講師にはNGO職員、開発コンサルタント、JICA職員、元国際機関職員、研究者など、経験豊富な方々をお招きし、多岐にわたるテーマを取り上げます。

皆様のご応募をお待ちしております。

■ 参加対象：

国際開発・国際協力分野に興味を持ち、将来、携わることを希望している社会人の方。
また、現在、国際開発協力事業に携わっている方。

■ 研修会場・日程：

□ 研修会場：FASiDセミナールーム（東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル 6F）

□ 研修期間：2018年10月27日（土）～12月1日（土）、毎週土曜日（全5日間）

※ただし、11月3日（土）は祝日のため除く

□ 講義時間：10:00～18:45の間で実施

コース内容詳細は、次頁掲載内容及び最終頁の日程表をご参照ください。

■ 募集人数：

(1) 全コース参加：20～25名

(2) 一部選択参加：各講座につき5名程度

※(1)、(2)ともに応募者多数の場合は、募集締め切り後に選考させて頂く可能性があります。選考は、全コースに申し込まれる方を優先させて頂きます。また、最少催行人数に達しない場合は、実施を見合わせる場合があります。

■ 参加費（税込み/当財団賛助会員・フレンズの方は2割引）：

(1) 全コース参加：34,000円（賛助会員・フレンズ：27,200円）

(2) 一部選択参加：3,400円/1回の講義（賛助会員・フレンズ：2,720円）

※参加費用は、別途ご案内する期日までに当財団の口座までお振込みください。振込み手数料は各自ご負担となりますのでご了承ください。

※一旦お振込み頂いた参加費は、実施を見送る場合や講師の都合で中止になる場合を除き、受講キャンセルの場合も払い戻しはできませんので予めご了承ください。

コース内容詳細 *印のある(1)及び(14)は、全コース参加の方のみ対象となります。

(1) オリエンテーション* (全コース参加の方のみ対象)

10月27日(土)10:00-12:00 ファシリテーション:FASID

内容:本コースの概要説明と参加者の自己紹介後、各講師/講義テーマへの質問等を出して頂きます。また、参加者の問題意識や国際開発協力分野における関心分野・活動等を共有します。

(2)国際開発協力の歴史、日本政府・主要ドナーの開発援助と国際相互依存関係

10月27日(土)13:00~15:30 講師:大野 泉 氏(独立行政法人国際協力機構(JICA)研究所 所長、政策研究大学大学院/GRIPS 客員教授)

内容:日本をはじめとする世界の主要援助国は、国際的な援助枠組みや各国の援助理念に基づき多様な援助戦略・手法を打ち出しています。最近の国際開発潮流を交えながら、日本が国際開発協力においてどのような位置づけや役割を果たしているかを解説し、日本が今後取り組む方向についても意見交換します。

(3)国際開発の変遷、住民参加型開発・開発援助の評価

10月27日(土)15:45~18:45 講師:田中 博 氏(一般財団法人参加型評価センター 代表理事)

内容:時代と共に変化してきた「開発」の考え方や目的を押えた上で、参加型開発の長所と留意点、プロジェクト・サイクルについて学びます。ネパールでのNGOによる農村開発プロジェクトを事例に、住民参加の可能性と課題について参加型評価手法(MSC:Most Significant Change)の紹介を交えて考えます。

(4)共に学ぶ場としての国際協力 ~NGOで働くこととは~

11月10日(土)10:00~12:30 講師:三宅 隆史 氏(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会/SVA ネパール事務所所長)

内容:政府の政策や方針ではなく、市民の問題意識を活動の出発点としているNGO(Non-government organization)は、国際開発協力においてどのような役割を担っているか。日本の国際協力NGOの歴史、役割や活動を具体例と共に学び、NGOで働く意義とNGO職員が直面する課題を考える機会を提供します。

(5)教育の国際協力、インクルーシブ教育

11月10日(土)13:30~16:00 講師:黒田 一雄 氏(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授)

内容:持続可能な開発目標(SDGs)の中に「すべての人に包摂的で質の高い教育を普及させる」という目標が掲げられているように、教育はすべての人が享受すべき基本的権利です。また、国際開発協力において、最も有効かつ効果的な手段でもあります。国際開発協力における教育の現状や課題について学び、また、すべての人に対する教育(インクルーシブ教育)について考えます。

(6)農村開発とジェンダー ~ジェンダー主流化が目指すこと~

11月10日(土)16:15~18:45 講師:田中 由美子 氏(城西国際大学国際人文学部 招聘教授)

内容:SDGsが謳う「誰一人取り残さない」という社会を実現するためには、多様性とジェンダーの視点に立ち、個々人の福祉と権利の保障の実現に向けた様々な取り組みが必要です。特に、地域社会における女性と男性、多様な人々の声を聞き、各々の貢献を正當に評価し、一人一人のエンパワメントの醸成に結びつことが不可欠です。そのためにはどのような国際協力のアプローチが求められているのかについて一緒に考えます。

(7)アフリカからグローバルイシューを考える

11月17日(土)10:00~12:30 講師:佐藤 章 氏(アジア経済研究所地域研究センター・研究支援部 主任調査研究員)

内容:アフリカは国際開発を考える上で避けて通れない存在です。しかし、アフリカについてまとまった知識を手軽に得られる機会は、残念ながらあまり多くありません。そこで、この講義では、1990年代以降のアフリカを取巻く政治経済や国際情勢の要点を押さえ、アフリカを見る目と勘所をつかみます。

(8) UNシステム、及び国連機関による平和政策(平和維持、平和構築、人間の安全保障等の概念と政策)

11月17日(土)13:30~16:00 講師:勝間 靖 氏(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授、国立国際医療研究センター・グローバルヘルス政策研究所・グローバルヘルス外交ガバナンス研究科長)

内容:国際連合及びその関連機関、専門機関などからなるUNシステムの基本構造を解説します。また、国連の主要な目的の一つである「国際平和と安全の維持」のための主要な政策手段についても解説します。昨今、注目される「人間の安全保障」や「保護する責任」といった政策概念についても紹介します。

(9)持続可能な開発のための2030アジェンダ、JICAによる国際協力、SDGsへの取り組み

11月17日(土)16:15~18:45 講師:岡崎 有香 氏(独立行政法人国際開発機構(JICA) 企画部 SDGs推進班)

内容:2015年9月、193の加盟国によって、持続可能な開発のための2030アジェンダが採択され、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の目標が持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)として設定されました。SDGsは何を目指しているのか、また、JICAはこれまでに培った経験やネットワークを生かしてどのように目標達成に取り組むかをご紹介します。

(10)気候変動の影響、緩和策と適応策

11月24日(土)10:00~12:30 講師:山岸 尚之 氏(WWFジャパン 気候変動・エネルギーグループ長)

内容:地球温暖化が進み、気温の上昇と共に世界各地の気候が大きく変化しています。その影響は、自然環境や生態系のみならず、世界中の人々の暮らしや社会、経済や産業に重大な問題を引き起こすことから、あらゆる分野に悪影響を及ぼすと予測されています。気候変動に関する国際社会の取り組みを紹介し、国際開発協力の視点から地球温暖化の緩和策と適応策について考えます。

(11)水問題と国際開発協力による課題解決への取り組み ~開発コンサルタントの観点から~

11月24日(土)13:30~16:00 講師:宮内 龍太郎 氏(日本テクノ株式会社 水資源・環境部部長)

内容:水は、人々の生活や産業活動を支えるかけがえのない資源です。身近な水との関わりから水資源に関する現状、複数の開発課題とのつながりを理解し、国際協力による途上国の水問題への取り組み等を通して、水資源や給水の課題について学びます。本講座では、人と水との関わりを、身近なところから途上国の現状までをグループワークを取り入れながら皆さんと一緒に考えていきます。

(12)民間企業による国際協力

12月1日(土)10:00～12:30 講師:増田 明子 氏(千葉商科大学 准教授)

内容:インクルーシブ・ビジネスとは、開発途上国の貧困層の人々を消費者、生産者、被雇用者、起業家などとしてビジネスのバリューチェーンに取り込み、現地で雇用や商品・サービスを生み出すことによって、貧困層の人々の選択肢の拡大と企業の事業機会の拡大を同時に実現するビジネスを意味しています。このような事業が、JICAと民間企業によって行われた事例を紹介しながら、官民連携による国際協力の利点と課題を考えます。

(13)緊急人道支援における援助の質とアカウントビリティ向上 ～人道支援の必須基準(CHS)とスフィアプロジェクト～

12月1日(土)13:30～16:30

講師:五十嵐 豪 氏(特定非営利活動法人 難民を助ける会/AAR Japan プログラムマネージャー、人道・開発支援における質と説明責任(Quality & Accountability: Q&A)トレーナー)

講師:松本 幸子 氏(一般財団法人 国際開発機構/FASID 人材開発事業部次長代理・コンサルタント、Q&Aトレーナー)

内容:紛争の被害者や自然災害の被災者の生命、尊厳、安全を確保するために行う緊急人道支援では、“Do no harm”(傷つけない/状況を悪化させない)を基本原則としています。Do no harmをどのように実現するのか、人道支援の質と説明責任に関する国際基準である人道支援の必須基準(Core Humanitarian Standard: CHS)及びスフィア・プロジェクトを通じて学びます。

(14)まとめ* (全コース参加の方のみ対象)

12月1日(土)16:45～18:15 ファシリテーション:FASID

内容:各コースで学んだことを振り返りながら意見を交換し、今後の各自の活動予定を共有します。

「国際開発入門コース」 運営インターン募集

**運営インターン応募受付は、10月2日(火)正午をもって締め切りました。
たくさんのご応募、誠にありがとうございました。**

コース参加者の募集とは別に、日本の大学(3年生以上)および大学院の学生等で、国際開発・国際協力分野の全体像を広く学び、将来、国際開発に関わる分野で活躍することを希望する方を、「国際開発入門コース」の運営インターンとして募集します。インターンの方には、実務経験と「国際開発入門コース」を聴講する機会を提供します。

■修了証:

全コース参加者の方につきましては、8割以上の講座(11講座以上)に参加されることを修了の要件とし、修了者には最終日に修了証を授与いたします。

■修了者特典:

本コース(全コース)を修了された方は、2019年3月迄に実施される当財団のProject Cycle Management (PCM)研修の「計画・立案コース」を、一般受講料の2割引で受講していただくことが出来ます。なお、応募者多数の場合は選考がございます。

※PCM研修については以下をご参照下さい。

http://www.fasid.or.jp/training/4_index_detail.shtml

応募方法詳細

■応募方法:

オンライン応募フォームよりご応募ください。オンライン応募フォームは、募集ウェブページにある「[応募フォームはこちら](#)」ボタンをクリックしてアクセスしてください。

募集ウェブページURL: http://www.fasid.or.jp/training/49_index_detail.shtml

受講の可否、及び受講料のお支払い方法等は、10月22日(月)迄に、ご本人へメールでご連絡いたします。

■応募締切日:

2018年10月17日(水)正午12:00

■お申込み・お問い合わせ先:

一般財団法人 国際開発機構(FASID) 人材開発事業部 担当: 山本 還 / 高倉

電話: 03-6809-1996 / Email: nyumon@fasid.or.jp

住所: 〒106-0041 東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル6F

ウェブページ: <http://www.fasid.or.jp>

■研修会場へのアクセス:

一般財団法人 国際開発機構(FASID)
セミナールーム (メソニック39MTビル6F)

東京メトロ日比谷線 神谷町駅
2番出口より徒歩6分

都営大江戸線 赤羽橋駅
中之橋口/赤羽橋口より徒歩7分

都営三田線 御成門駅
A1出口より徒歩10分

